



研究データ管理

図書館に期待される機能・役割

機関リポジトリ推進委員会 ワーキンググループメンバー
岡山大学附属図書館 大園隼彦

本日の内容

- 助成機関のデータ管理ポリシーとデータ管理計画書から、図書館に求められる機能・役割を考える。
- それらの機能・役割は機関リポジトリ(IR)を利用することで満たすことができるのか？
- 図書館に期待されることは？

Requirement by UK Research Funder

 Full Coverage
  Partial Coverage
  No Coverage

	Policy Coverage		Policy Stipulations					Support Provided			
Research Funders	Published outputs	Data	Time limits	Data plan	Access/sharing	Long-term curation	Monitoring	Guidance	Repository	Data centre	Costs
AHRC	●	●	●	●	●	◐	○	●	○	◐	◐
BBSRC	●	●	●	●	●	●	●	●	●	◐	●
CRUK	●	●	●	●	●	●	●	◐	●	○	○
EPSRC	●	●	●	◐	●	●	●	◐	○	○	●
ESRC	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	◐
MRC	●	●	●	●	●	●	○	◐	●	○	◐
NERC	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	◐
STFC	●	●	●	●	●	●	●	◐	●	◐	◐
Wellcome Trust	●	●	●	●	●	●	●	●	●	◐	●

わが国におけるデータシェアリングの あり方に関する提言（平成27年4月）

- 提言1. データシェアリングポリシーを早急に策定すべき
- 提言2. わが国としての持続的な研究データ基盤を構築すべき
- 提言3. 研究データに係る人材の確保と育成を政策的に推進すべき
- 提言4. 研究データに係る研究業績評価の仕組みを見直すべき
- 提言5. 国はデータシェアリングを推進する研究コミュニティに対し、充実した支援サービスを行うべき

Economic and Social Research Council (ESRC)

データ管理ポリシー

ESRCデータ管理ポリシー

1. 公的助成を受けた研究データは公益であり、高い倫理基準を満たし、プライバシーと知的所有権を脅かさず、時宜にかなった責任ある方法で、**可能な限り制限を少なく、オープンにアクセスし利用**できるものとする。
2. 機関及びプロジェクトのデータ管理ポリシーと計画は、関連基準とコミュニティの優良事例に準拠しなければならない。長期的価値のあるデータは、**将来の研究のためにアクセスし利用できるよう適切に運用**しなければならない。
3. 他の利用者が効果的に研究データを再利用できることを保証するため、研究データが発見でき、作成者の情報がなくても独立して理解できることを保証する、**十分なメタデータが記録され公開されなければならない**。公開した成果は補助データや関連するメタデータへのアクセスに関する情報を常に含まなければならない。

ESRCデータ管理ポリシー

4. ESRCは研究データの公開について、法的、倫理的、そして商業的な制約があることを認識している。データの不適切な公開が研究プロセスを損なわないように、研究機関のポリシーと実践は、研究の開始時から研究とデータのライフサイクルを通してこれらの制約が考慮されていることを保証するものでなければならない。
5. 研究チームがデータの収集・分析に費やした労力の報酬を保証するために、ESRCの助成を受けた者は、一定の期間、研究成果の元となる自身の収集したデータの排他的利用の権利を与えられる。排他的利用の期間は、**できるだけ早い機会にメタデータを公開**することを妨げるものではない。
6. 重要な研究データセットを作成、保存、共有する研究者の知的貢献を認めるため、これらのデータの作成者は、**引用に充分かつ永続的な情報**を提供しなければならない。そして全ての研究データ利用者は、利用したデータを公式に引用することでソースを認知し、その利用条件に従わねばならない。

ESRCデータ管理ポリシー

7. 公的助成を受けた研究データの管理や共有を進める際に助成金を使うことは適切である。限られた予算の中で得られるであろう研究利益を最大化するために、これらの**活動のメカニズムは効率的で、費用対効果をよくしなければならない**。
8. **研究成果の公開と同時に、その成果を支える一般データは発見できアクセスできるものとする**。
9. 研究データの公開者は、優れた研究の実践と完全性をサポートするために、**研究データの引用に充分で持続的な情報を提供**しなければならない。

Data Management Plan

Guidance for peer Reviewer

- What is data management plan

生成されたデータが最大限利用できるよう、データ管理の考えを研究サイクルに取り入れる。

データを生成する全ての申請でデータ管理計画の提出は必須。

ほとんどのデータはアーカイブされ共有されるであろうが、もしできない場合は、データ共有に関する課題(著作権、機密性等)は計画においてよく考える必要がある。

Data Management Plan

Guidance for peer Reviewer

- チェック項目

- ☐ Assessment of existing data

既存データの利用可能性、ライセンスについて

- ☐ Information on new data

新しいデータの説明(収集方法、フォーマット、記録方法)

- ☐ Quality assurance of data

データの検証方法、データ収集の基準、転写用のテンプレート

- ☒ Backup and security of data

バックアップの説明、機密データの取り扱い、バージョン管理

Data Management Plan Guidance for peer Reviewer

- チェック項目

- Expected difficulties in data sharing
同意の取得、匿名化、アクセス制限

- Copyright/Intellectual property right
著作権の同意確認、権利放棄

- Responsibilities
データ管理プロセスの責任者

- Preparation of data for sharing and archiving
保存・公開の基準、十分なメタデータの記述

Sample ESRC Data Management Plan

— **Bristol大学** —

Sample ESRC Research Data Management Plan

1. Roles and Responsibilities

- ・PIの能力、経験について
- ・RAの役割について
- ・研究倫理委員会の役割について

2. Assessment of existing Data

- ・既存データの有無について

Information on New Data and Quality Assurance

2. 1 Typology of Data

新しく取得した**データの種類**について

例) ワークショップの録音と原稿

インタビューの録音と原稿

ワークショップで作成された文章等

2. 2 Format

UK Data Archive推奨の**長期保存フォーマット**

Sample ESRC Research Data Management Plan

2. 3 Quality Assurance

- ・ワークショップの質の保証について
- ・インタビューの質の保証について
- ・録音資料の質の保証について

2. 4 Ethical Considerations

- ・機密データの取扱いについて

3. Storage and Sharing Data

3. 1 Back-up Storage Facility

- ・データ保存のストレージ(RDSF)について
- ・バックアップの方法について
- ・保存データのセキュリティについて

Sample ESRC Research Data Management Plan

3. 2 Access and Data Sharing

RDSFのアクセス制限について

機密情報のアクセス制限について

データを共有するまえに個人情報を匿名化

データのアーカイブについて([Economic and Social Data Service](#))

4. Costing data Management

RDSFはデータ管理者一人当たり5TBまでは自由に利用可能。

“Data Bris” と “UK Data Archive”

Migration, Nutrition and Ageing Across the Lifecourse in Bangladeshi Families: a Transnational Perspective, 2009-2012

Alternative title	Project MINA
Creator(s)	Thompson, J., University of Bristol. School for Policy Studies. Centre for Exercise, Nutrition and Health Sciences
Funder	Economic and Social Research Council
Publisher	UK Data Service
DOI	10.5255/UKDA-SN-6781-1

The aim of this study is to closely examine migration, nutrition, and ageing across two generations of Bangladeshi women living in Cardiff, UK and in Bangladesh. Mixed methods will be used to assess body weight, bone density, general health status, and women's perceptions of nutrition, eating patterns, and ageing. Results will inform the development of community-based, participant-driven resources for promoting nutrition and healthy ageing.

Data Resources



Held at: UK Data Service

Explore

Community and urban... Elderly Social stra... Ethnic minorities Gender roles
General Health Health Nutrition Population Migration Social stratificati...
Society and culture vital statistics an...

Migration, Nutrition and Ageing Across the Lifecourse in Bangladeshi Families: a Transnational Perspective, 2009-2012

[Documentation](#) | [Publications](#)

[Download/Order](#) | [DDI XML](#)

TITLE DETAILS

SN: 6781
Title: Migration, Nutrition and Ageing Across the Lifecourse in Bangladeshi Families: a Transnational Perspective, 2009-2012
Alternative title: Project MINA
Persistent identifier: [10.5255/UKDA-SN-6781-1](https://dx.doi.org/10.5255/UKDA-SN-6781-1)
Depositor: Thompson, J., University of Bristol. School for Policy Studies. Centre for Exercise, Nutrition and Health Sciences
Principal investigator(s): Thompson, J., University of Bristol. School for Policy Studies. Centre for Exercise, Nutrition and Health Sciences
Sponsor(s): Economic and Social Research Council
Grant number: RES-354-25-0002

CITATION

The citation for this study is:

Thompson, J., *Migration, Nutrition and Ageing Across the Lifecourse in Bangladeshi Families: a Transnational Perspective, 2009-2012* [computer file]. Colchester, Essex: UK Data Archive [distributor], August 2013. SN: 6781, <http://dx.doi.org/10.5255/UKDA-SN-6781-1>

[Select the text above](#) to add data citation in your outputs.

SUBJECT CATEGORIES

Community and urban studies - Society and culture
Elderly - Social stratification and groupings
Ethnic minorities - Social stratification and groupings
Gender roles - Social stratification and groupings
General - Health
Migration - Population, vital statistics and censuses
Nutrition - Health

ABSTRACT

図書館が今できること

研究データへのDOI登録実験プロジェクト

◆ 2014年12月にリリースしたJaLCの新システムでは、研究データへのDOI登録も可能になりました。しかしながら、研究データへのDOI登録に関しては、世界的にみても未だ様々な課題の検討が進められている段階です。

そのため、JaLCにおいて研究データへのDOI登録を開始するのに先立ち、研究データへのDOI登録に特有の課題抽出とその解決、運用方法の確立、DOIの活用方法などの検討を実験プロジェクトとして行い、我が国における研究データへのDOI登録の仕組みをプロジェクト参加機関とともに新たに構築します。

プロジェクトの詳細につきましては、以下にある各資料をご覧ください。

◆ プロジェクト実施期間：平成26年10月～平成27年9月

◆ プロジェクトにご関心のある方は、JaLC事務局までメールにてお問い合わせ下さい。
JaLC事務局：jalc-contact#jst.go.jp（※ [#]は[@]に置き換えて下さい）

参画機関（敬称略、順不同）

国立研究開発法人 科学技術振興機構

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所

国立研究開発法人 産業技術総合研究所

国立研究開発法人 情報通信研究機構

千葉大学附属図書館

国立研究開発法人 物質・材料研究機構

国立研究開発法人 理化学研究所 脳科学総合研究センター神経情報基盤センター



保存とアクセス保証のノウハウを蓄積することは重要

さらに . . .



データ管理に関わる様々な要因



- データの定義
- 役割と責任
- ポリシー
- データ管理
- データ共有
- データ管理計画
- ツールとサービス
- ストレージ
- アクセス方法
- 倫理の問題
- 公開
- 保存方法
- 引用
- ライセンス

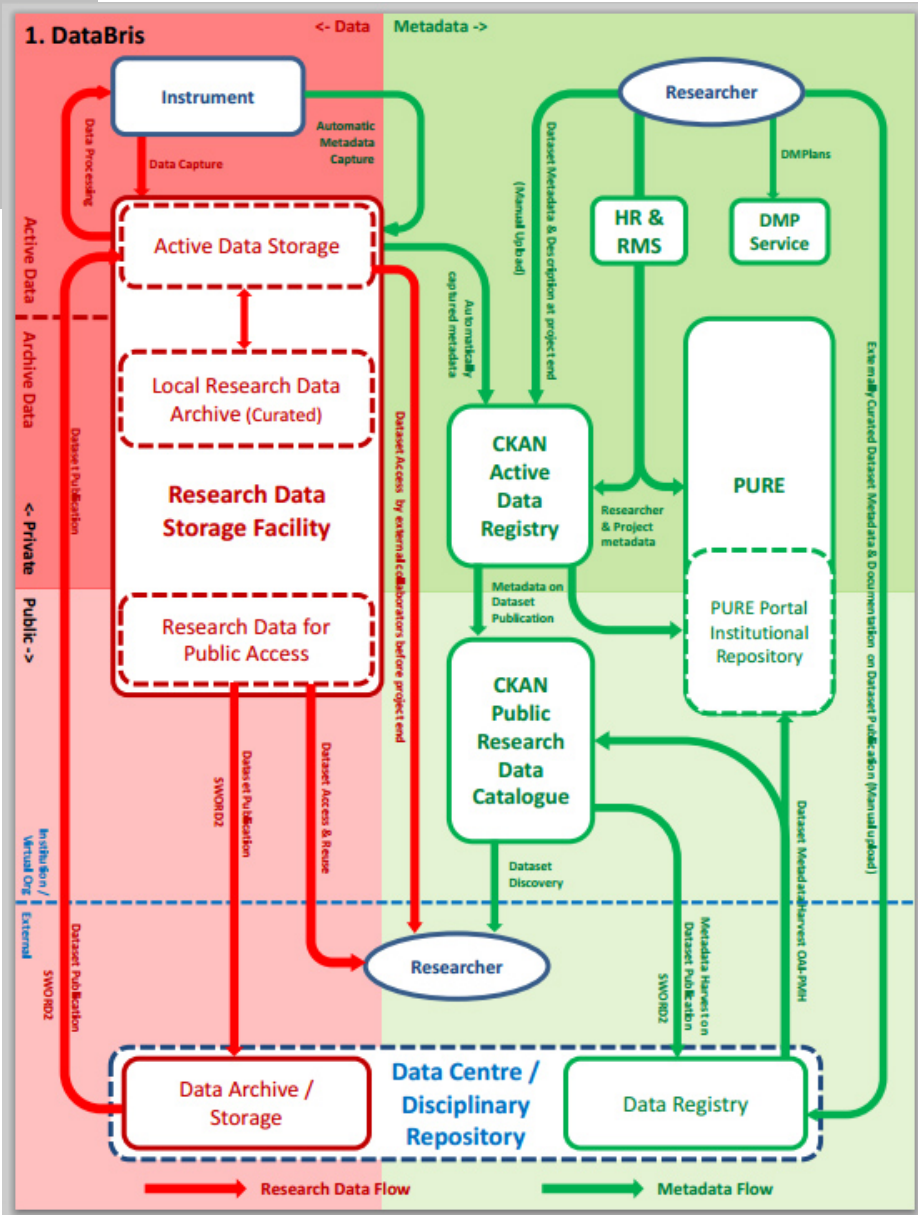
“Comparing the coverage of different courses”

<http://www.dcc.ac.uk/events/workshops/comparing-notes>

図書館はどこまで関ることができるのか

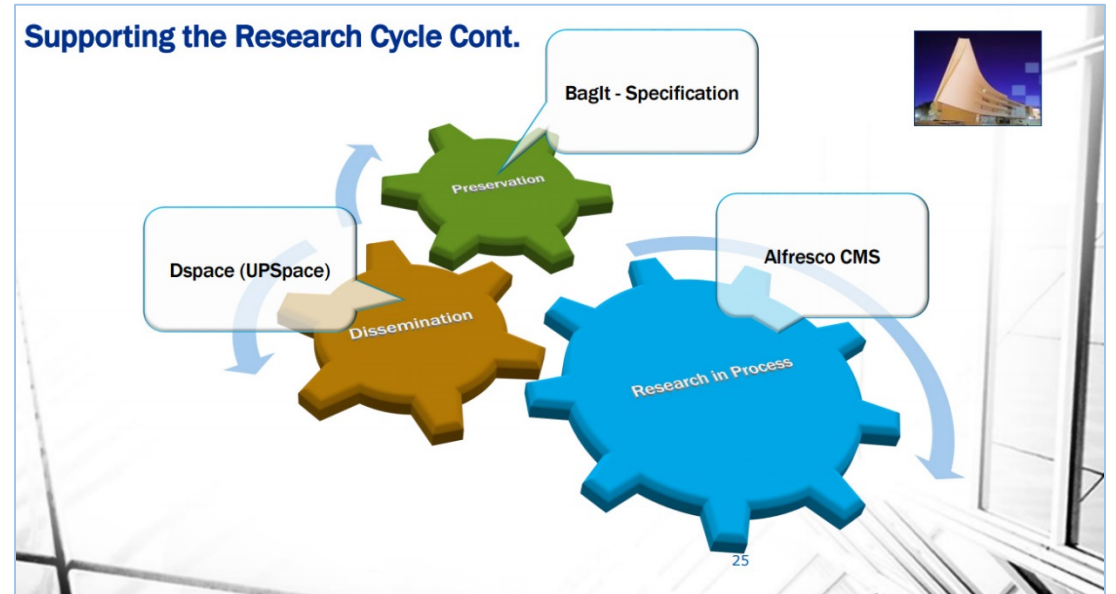
Bristol大学の例

- データライフサイクルを通してサポート
 - IRはサービスの構成要素の一つ
- IRとCRISとRDSF
- 様々な公開場所
- IRとデータリポジトリとUK DataArchive



Enterprise Contents Managemet

- ECM
 - ・企業内コンテンツの管理制度を向上させる仕組み
 - ・非定型のデータを管理
 - ・細かに設定できるアクセス権限
 - 自動的なバージョン管理
- アクティブデータの管理に



“Going full circle : research data management @ University of Pretoria”
”http://www.ereseach.ac.za/sites/default/files/image_tool/images/140/Going_Full-Circle_RDM_UP_VanWyk_VanderWalt_26Nov_2014.pdf”

ECMは活用できるか？

ホーム マイファイル 共有ファイル サイト ▼ タスク ▼ 連絡先 リポジトリ 管理者ツール Administrator ▼ ファイル、ユーザー、サイトの

Project A サイトダッシュボード 文書ライブラリ サイトメンバー

文書

OpenForum.pptx 1.1

変更者: Administrator、変更日: 2015年5月31日 (日) 23:46:11 ☆ お気に入り いいね! 0 コメント 共有

ダウンロード

1 / 24 70% 最大化 ダウンロード

研究データ管理

図書館に期待される機能・役割

本日の内容

- ・ 助成機関のデータ管理ポリシーとデータ管理計画から、図書館の機能・役割を考える。
- ・ それらの機能・役割はIRを利用することで充分満たすことができるのか？

▼ 文書向けアクション

- ダウンロード
- ブラウザで表示
- プロパティの編集
- 新規バージョンのアップロード
- オンラインでの編集
- オフラインでの編集
- コピー先...
- 移動先...
- Google ドキュメント™ で編集する
- 文書の削除
- ワークフローの開始
- 権限の管理
- アスペクトの管理
- タイプの変更

▼ タグ (なし)

▼ 共有

このリンクをコピーして現在のページを共有する

<http://127.0.0.1:8080/share/page/site/project-a/d>

ホーム マイファイル 共有ファイル サイト ▼ タスク ▼ 連絡先 リポジトリ 管理者ツール Administrator ▼ ファイル、ユーザー、サイトの

Project A サイトダッシュボード 文書ライブラリ

プロパティの編集: OpenForum.pptx

* 必須フィールド

名前: *
OpenForum.pptx

タイトル:
PowerPoint プレゼンテーション

説明:

MIMEタイプ:
Microsoft PowerPoint 2007

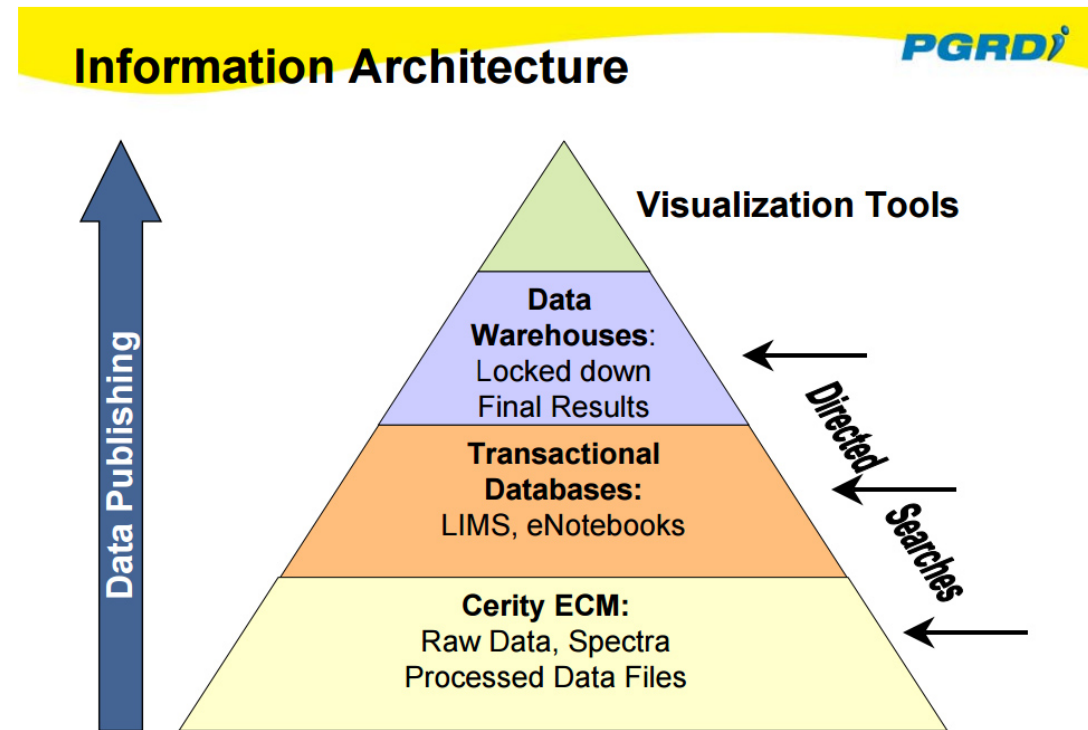
作成者:
大園 隼彦

タグ:
選択

保存 キャンセル

図書館が今後考えること

- データ管理による機関のメリット
- ステークホルダーとの協働
- 研究者の労力を少なくする
- より上流からサービスする
- 効果的にコンテンツを収集
- IRの相互運用性



“Enterprise contents management for the laboratory”

http://images.alfresco.advanstar.com/alfresco_images/pharma/2014/08/22/cd59ad34-19d9-4da3-a14a-460f150afd38/article-158548.pdf